



100%土にかえる究極のエコバッグの製造販売

経費をかけ廃棄処分される合成繊維の再利用を考えたところから発展し、縫製系まで土にかえるポリ乳酸繊維で出来た究極のエコバッグ『クナプラス』を開発。

本業の動向について

別法人として独立以前の金津繊維株式会社は、土木用の産業用シート地などの製造を主要業としている。現在は、受注が重なり多忙となっているが、一年後までは続かないと捉えている。今後も景気低迷の長期化がそのまま経営状況に反映される可能性が高く、当面は回復が望めないと見ている。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

福井県工業技術センター

所在地

福井県福井市川合鷲塚町 61 字北稲田 10

連携内容

廃棄処分される繊維の再利用を目的とした、本体のみならず縫製系までバッグ全体が自然に還る素材でできた、デザイン性・実用性に優れた究極の「エコバッグ」の開発

連携した動機やきっかけ

もともと製造していたナイロン製の靴生地織りの在る物などは、販売できないどころか廃棄処分するのに費用まで掛かってしまう。その問題を解決する方法を見出そうと、福井県工業技術センターへ相談に向いたのがそもそもの始まりである。相談過程で発想を変え、廃棄費用分を別事業で補完することは出来ないかと考えた。時流に乗ったエコ製品を作ることにとどり着き、単なるエコ製品ではなく徹底的にこだわりを持った 100%土に戻るエコ製品の開発を始めた。

連携の効果

繊維織物は製造していたが、製品まで製造した経験を持っていなかったため、段取りから指導を仰ぎ大変勉強になり現在も役立っている。

連携して最も効果のあったこと

完成した技術のプレスリリースをして頂けたこと。販売業者・バイヤーへのアプローチ方法を指導してい

ただけたこと。試作品の手直しを重ねて、ようやく製品として完成し販売に漕ぎ着ける工程を体験できたこと。更に、現在ではこの事業独自の販売ルートを得たことで別法人を立ち上げ、商品数を増やし有名百貨店で販売できていることなど、幾つもの効果を実感し感謝している。

連携して最も困難だったこと

初めて行う製品化事業を、一年間という期限を決め、かつて経験のない不慣れな業務にも密度の高い作業を求められたこと。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては、公的機関は専門的な機械を持っているため、試験結果などを細かなデータとして出してもらえること。

デメリットは特に感じたことがない。

連携に際しての注意、アドバイスなど

研究機関に全てを任せた状態にすることなく、一緒に作っていくことが重要。自らが苦心の末に完成させた物でなければ愛情を感じられず、販売していくことに真剣になれないと思う。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

以下の二点が挙げられる。

- ・行政が実際に利用している姿を見せていただくと一番のアピールになり資金的なバックアップにもつながるのでお願いしたい。
- ・国の補助金は規制が厳しい上、提出書類が煩雑で、人的余裕のない企業は書類作成の段階で断念しかねない。是非とも書類の簡素化をお願いしたい。

会社概要

設立:2008年12月22日

資本金:200万円

従業員数:3名

URL: <http://knaplus.com/>